連続講座

市民がつくる水と緑のネットワーク
～過去から学び、武蔵野市の未来を創造する～

第１回　講演会

玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会　主催
2016 年度武蔵野市生涯学習事業費補助金対象事業

さとやまと水辺の生物多様性の保全と市民の参加

江戸時代につくられた玉川上水や雑木林は、当時の人々の生活に欠かせない場所でした。そして明治の文豪・国木田独歩は作品『武蔵野』の中で、これらがかもし出す風景の美しさを描写しています。この歴史・文化・自然的な財産を、私たちはどのように楽しみ、守り、未来へとつないでいけるのか、講演をとおして考えてみませんか。

講師：鷲谷いづみ氏
（中央大学教授）

東京大学名誉教授。理学博士。みどりの学術賞、日本生態学会功労賞などを授賞。「さとやま」や水辺の生物多様性の保全と再生などに関する幅広い研究や普及活動を行っている。『自然再生―持続可能な生態系のために』、『さとやま―生物多様性と生態系模様―』、『生態学―基礎から保全へ』など著書多数。

日時・9月19日（月・祝）
午前 10 時～ 12 時 15 分
（午前 9 時 45 分開場）

会場・武蔵野プレイス
4 階フォーラム（武蔵境駅南口徒歩 1 分）

- 定員 100 名（申し込み順、要事前申し込み）
- 参加費：無料
- 申し込み：玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会
  E メール：sumie634@jcom.zaq.ne.jp
  FAX:0422-54-8892

【「連続講座第１回申し込み」、住所、氏名（ふりがな）、電話番号を明記】

- 問合わせ：上記 E メール、090-7724-3066（同会・田中）

今後の予定

第２回　玉川上水・千川上水などと雑木林の見学会（１０月頃）
第３回　ワークショップ（１２月頃）

後援団体：　玉川上水ネット・武蔵野史談会

玉川上水と武蔵野の雑木林

玉川上水とは、江戸時代の初期（1653年）、江戸城等に飲料水を供給するためにつくられた上水（上水道として利用される溝渠）です。多摩川から取水し、羽村から四谷大木戸までの全長43kmが築かれました。1722年（享保7年）以降の新田開発に伴い、多くの分水（用水路）が開削されて武蔵野台地の農地へも水を供給し、農業生産にも大いに貢献しました（代表例は、野火止用水、千川上水）。現在は当上水の開渠部分（羽村から杉並区浅間橋跡まで）が国の史蹟に指定されています。

武蔵野市内を流れる玉川上水

市立境山野緑地にある「独歩の森」

武蔵野の雑木林とは、江戸時代中期までの新田開発に伴い、コナラやクヌギを中心につくられた雑木林です。木を伐って薪や炭として燃料にし、落ち葉は堆肥（腐葉土）として利用しました。雑木林の木は定期的に燃料として伐採され、切株から出る萌芽を育てるという循環（萌芽更新）で維持されていました。現在では開発により面積が激減し、わずかに残された雑木林が各地に点在しています。武蔵野市内では市立境山野緑地にある「独歩の森」がその一つです。

玉川上水・分水網を未来遺産・日本遺産へ

玉川上水ネット（プロジェクト未来遺産推進委員会）は、「玉川上水・分水網の保全活用プロジェクト～その自然環境と歴史文化的景観を未来につなげる～」と題して、17団体5個人（2016年5月現在）の活動内容を中心に玉川上水・分水網を未来遺産にしようと、日本ユネスコ協会に申請しています。未来遺産として認められるためには、その対象が自然・歴史文化的景観資産であることに加えて、それを保全回復する市民の活動が中心であることが必要です。また、玉川上水・分水網の保全・再生連絡会（専門家・市民団体等4団体で構成）は、玉川上水・分水網を日本遺産にしようと、関係自治体に働きかけ、文化庁への登録申請を要望しています。

練馬区との境を流れる千川上水

玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会

東京を東西に流れる水と緑の回廊「玉川上水」は、生物多様性の観点からも市民の憩いの場・散歩道としても貴重な財産となっており、当上水を守り育てていきたいと２０１４年に武蔵野市民で会をつくりました。

今年度は、表面の講演会や学習・見学会を予定しています。

会員３１名。

武蔵野プレイス周辺

〒180-0023　武蔵野市境南町 2-3-18

電話　0422-30-1905

アクセス：JR 中央線・西武多摩川線
「武蔵境駅」南口下車、徒歩1分